



発行  
財団法人東京都教育文化財団  
東京都埋蔵文化財センター  
〒206 東京都多摩市落合  
1-14-2  
☎ 0423-73-5296  
平成7年7月20日

# たまのよこやま

東京都埋蔵文化財センター報 No. 34 平成7年7月20日



多摩ニュータウンNo.72遺跡 出土

## 古代人の知恵など

梶井 稔

最近の考古学ブームを反映して、次々に報じられる新たな遺物の発見報道には胸おどる思いがする。

埋蔵文化財関係の業務に携わるようになっておおよそ一年を迎えようとしているが、この間の少ない体験を通じて、二つの点で人間の知恵のすばらしさを強く感じている。

一つは、古代人の生活における知恵や造形美に対する感性のすばらしさについてである。石器や土器等の作り出される過程や施された紋様などを見るにつけて、洗練された思考と感覚を読みとることができる。

二つめは、そういった古代の謎を解く調査研究員のプロとしての確かな「目」についてである。素人には気付かない土の色の違いの中に、何と多くの歴史を物語る内容があると驚きである。

こういった現代人の知恵が、古代人の生活を次々と解き明かしていくことに対し、畏敬の念をいだくとともに古代人の偉大さを学び、そこにロマンを感じるのである。

これから先、どんな新たな発見や研究成果に接し得ることか楽しみである。

(前所長)



遺跡だより ④3



汐留遺跡の海食崖

遺跡の調査では、事前に予期できなかった発見も少なくありません。汐留遺跡に残されていた縄文時代の波食台と海食崖もその例です。

波食台とは波の浸食が陸地を削ってできる平坦面で、その先端部分には海食崖と呼ばれる崖ができます。汐留の海食崖は幅20mに渡って確認されたもので、標高はマイナス2.0、マイナス1.5mの高さで、オリーブ色をした上部東京層といわれる洪積層の基盤を削っています。この海食崖を砂利とロームブロックが混じりあった土層が被っていました。この土中から、約一万年前から七千年前の擦糸文期から茅山期の縄文早期の土器が、700片ほど出土しました。

その一万年前の汐留付近の地形を見ると、駿河台方面から本郷台地が

この汐留まで延びていました(図)。それが六千年前の縄文前期になると、気候の温暖化による縄文海進のため、海面は現在よりプラス3mまで上昇しました。このため本郷台地は徐々に波で洗われ、神田付近まで削られて日本橋台地が形成されました。汐留の海食崖とは、まさにその日本橋台地の先端にあたるのです。なお、江戸前島と呼ばれる砂州は、その後に埋没した日本橋台地に土砂が堆積してできたものなのです。

さて、波で削られるまでの台地上には、旧石器時代や縄文早期の人々の生活跡があったはずですが、これらの遺跡も、波の浸食と海進により削られ消滅したものと考えられます。汐留で出土した土器片とは、この台地上にかつてあった早期の遺跡が、海進により削られていく過程で海食崖に崩落したものが残ったのでしょう。しかし、何故か当時のもう一方



海食崖



下町低地の沖積層基層の地形  
〔東京の自然史〕貝塚爽平著より

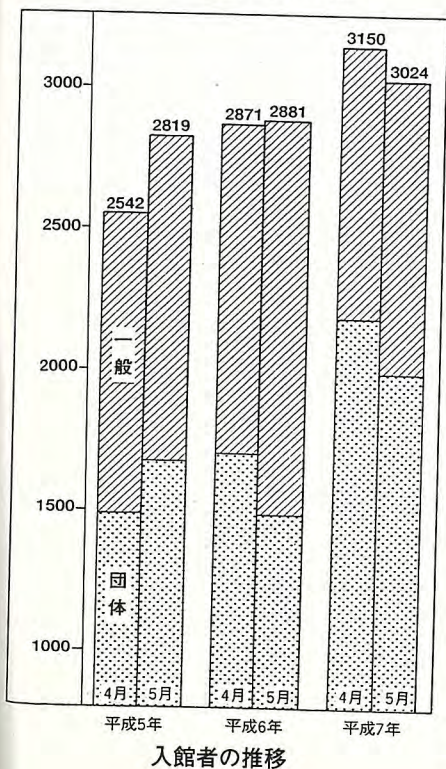
の生活用具である石器類が見当たらないのは、謎であります。

今回の発見から明らかのように、当時の海岸付近にあった相当数の遺跡が、海進等により自然消滅したものと考えられます。いまは消えてしまった遺跡の存在もまた、縄文時代の実態を知る重要な手がかりを教えてください。

(斉藤 進)



出土した土器



入館者の推移

(山崎 充)

▼ 展示ホールへご案内 ▲

当センター二階の展示ホールでは、多摩ニュータウン遺跡から出土した遺物を中心に、三十年に及ぶ発掘調査の成果の一部を一般公開しています。毎年三月に模様替えする常設展示と遺跡庭園が人気を呼んで、年とともに来館者も増加し、六年度には一万六千人にものぼりました。

その中でも四月から五月にかけては、小学六年生の社会科が歴史のはじまりでもあり、近隣の小学校がこぞって学習に訪れます。

記録のない、遠い時代の人びとの生活を、出土した遺物を直接見たり触れたり、あるいは古代の映画を通して考えたりすることが、将来への貴重な体験になるでしょう。

皆様のご来館をお待ちいたします。



平成7年度 広報普及事業のご案内

日	時	行事名	内 容
5月 3日(水)	10:00~14:00	縄文土器の野焼き 雑穀の種まき	縄文土器の焼成の実演 庭園でアワ・キビ・ソバ等を作付け
7月 1日(土)	13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「旧石器人の食生活」 講師 館野 孝 都埋文センター
8月 2日(水) 3日(木) 25日(金)	10:00~17:00	縄文土器作り教室 定員30名	詳細は「広報東京都」等に掲載の予定 応募者多数の場合は抽選になります
9月 9日(土)	13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「貝塚から見た縄文人の食生活」 講師 堀越 正行 市川市考古博物館
10月14日(土)	13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「縄文時代の植物食」 講師 安孫子昭二 都埋文センター
11月25日(土)	13:30~16:30	15周年記念講演会 定員150名、申込不要 *たましん会議室	講演「多摩ニュータウンと東京の考古学」 講師 石井 則孝 都埋文センター 可児 通宏 東京都文化課
12月 2日(土)	13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「雑穀の栽培と調理」 講師 木俣美喜男 東京学芸大学
2月17日(土)	13:30~16:00	文化財講演会・映画 定員120名、申込不要	講演「江戸の食文化-焼塩壺」 講師 長佐古真也 都埋文センター

\*たましん会議室(国立駅東口 多摩信用金庫国立支店)



縄文土器の野焼き

年間行事のはじめとして、五月三日に、遺跡庭園で同好の志が持ち寄った縄文土器の野焼きを楽しみました。朝方は雨模様でしたが天候も回復し、土器も見事に焼き上がり、気分はすっかり縄文人。案内状を見て駆けつけたという都区内からの見学者も感激。参加者は84名。

生涯学習部 — 文化課

- 文化振興係
- 文化財保護係
- 埋蔵文化財調整係
- 埋蔵文化財調査係

埋蔵文化財調査センター  
(昭和60年1月1日 設置)

所長(係長級) 1名  
嘱託員 3名

東京都教育文化財団 — 財団事務局

埋蔵文化財センター(昭和55年7月1日 設置)

- \*所長 総務課
- 所長は、調査センター所長を兼務
- 庶務係
- 労働安全衛生担当係長
- 経理係
- 施設係
- 埋蔵文化財調査センター係

調査研究部

- 第1 調査研究室
- 第2 調査研究室
- 調査研究資料室

\*職員数 派遣 10(事務4、土木1、学芸5) + 調査センター 派遣1 嘱託3  
固有 59(事務9、学芸50)

埋蔵文化財センターの組織改正

これまで教育庁文化課の管轄にあった埋蔵文化財調査センターが、平成七年四月一日から、当センターの総務課調査センター係に組織替えになりました(左図)。業務の内容は従前のおり、施設の管理運営をはじめ展示ホールの解説等を担います。

遺跡見学会のお知らせ

当センター日の出分室が、昨年六月から調査を進めてきました、圏央道・日の出インターチェンジ建設用地内の遺跡見学会を、左記のように開きます。

皆様の参加をお待ちしております。

日時 八月五日(土)

午後一時~三時まで

場所 西多摩郡日の出町三吉野

交通 圏央道日の出IC建設用地

JR五日市線 秋川駅下車

徒歩十分(地図参照)

(駅前案内がです)

内容 古墳時代の集落跡

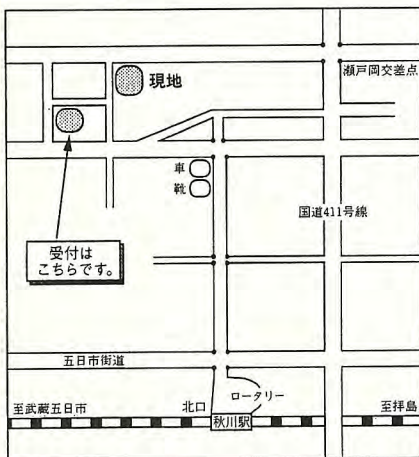
古代の牧関連の遺構

申込み 当日現地にて受付

問い合わせ 東京都埋蔵文化財センター

日の出分室

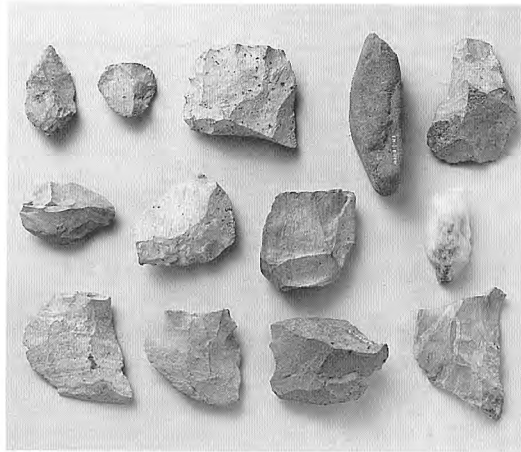
0425-9716473





No.471-B 遺跡の旧石器

昭和62年に発掘されたこの石器群は、これまで南関東地域で最古の旧石器(約五万年前)として注目されてきました。このほど、旧石器時代の古い石器群の存在を明らかにした資料であることが評価され、平成六年三月二十七日付けで、東京都指定有形文化財(考古資料)に指定されました。



今年度の第一回文化財講座

七月一日(土)に、当センターの館野孝課長補佐による「旧石器人の食生活」の講演会が行われ、盛況でした。映画「野尻湖発掘の記録」も上映され、内容を膨らませてくれました。参加者は80名を数えました。

文部省科学研究費補助金の交付

当センターの左記の5名宛に、平成七年度文部省科学研究費補助金の交付の決定通知がありました。

安孫子昭二 「関東地方縄文時代後期中葉における東北文化の影響」

五十嵐彰 「石器資料の考古学的分類の実態把握および分類体系の構築」

可児通宏 「縄文土器を中心とした土器製作技法の研究」

上條朝宏 「粘土採掘坑とその採掘粘土の行方」

鈴木美保 「使用石材と石器製作技術の相関関係」

研究活動への助成

平成七年度の職員研究助成(個人研究)が決定しました。

伊藤 健 「先石器時代後半における地域文化圏の確立」

第十二回安全の日と標語

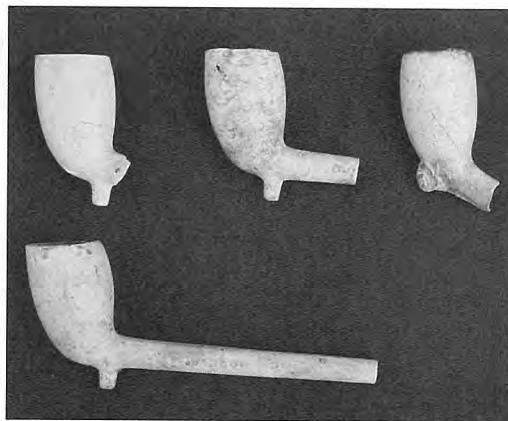
七月一日(土)の創立を記念して安全の日とし、安全標語を募集してきました。今年も職員や発掘・整理等に従事する大勢の方がたから応募があり、審査の結果、鮫島正己さんの標語が一席に選ばれました。

『安全と口で言うよりまず確認』

「新発見考古速報展」に出陳

文化庁の主催により、六月二十日から平成七年一月二十八日にかけて、全国の7会場を巡回展示します。

この展覧会には、当センターが調査に関わった、No.949遺跡の粘土採掘坑で発見された古墳時代後期のわらじ、汐留遺跡(新橋停車場跡)から出土したクレイパイプ(写真)・切符等も出陳されています。



お雇い外国人の鉄道技師が愛用したクレイパイプ

西国分寺分室の開設

「西国分寺地区特定住宅市街地総合整備促進事業」に伴う埋蔵文化財の調査が、この六月に開始しました。

この調査は、雪田隆子調査研究係長(兼務)・川島雅人・岩橋陽一・武笠多恵子調査研究員が担当します。

丸の内三丁目遺跡出土品の展示

当センターが発掘調査し、昨年度に報告した本遺跡の水道施設が、文京区本郷二丁目の本郷給水所跡地にオープンした「東京都水道歴史館」に展示されています。

人のうごき

平成七年度、当センターでは近年にない大幅な異動がありました。

▼ 四月一日付け 岩下博明庶務係長が土肥学園に転出し、後任に大槻茂博が就任。大橋伸子経理係長が総務部に転出し、後任に塩野福松が就任。渡辺晃施設係長が多摩都市整備本部に転出し、後任に前山孝雄が就任。また、佐藤和子都立埋蔵文化財調査センター所長が府中青年の家に転出し、組織改正により設置された総務課埋蔵文化財調査センター係長に、江頭晃が就任しました。

▼ 六月一日付け 梶井稔所長が教育庁参事として転出し、後任に石井則孝調査研究部長が就任しました。後任には佐藤攻生涯学習部文化課課長補佐兼任埋蔵文化財調整係長が就任し、替わって当センターの可児通宏課長補佐が転出しました。後任には館野孝調査研究係長が昇格し、替わって小林重義文化課埋蔵文化財調整係主任が就任しました。